

古里の魅力学ぶ模擬会社

西別院小が設立

西別院小(亀岡市西別院町)が企業体験学習の一環として、校内に模擬会社「NISSIIカンパニー」を設立し、地元産品を使った商品を開発、販売を手がけている。地域住民にも好評で、児童たちが古里の魅力を学ぶきっかけになっている。府内の小学校でも先駆的な取り組みとして注目を集め、文部科学大臣表彰を受賞した。

文部科学大臣表彰を受賞

地元産の商品開発、販売

児童が会社経営のノウハウを学び、事業化する力を培う狙いで、同小が3年前からNPO法人「アントレプレナーシップ開発センター」(京都市中京区)や地域住民の協力を得て実施。総合学習の時間を活用し、全校児童19人が「社員」として活動している。毎年1学期に「社員総会」を開き、社長や副社長を児童から選び、年間の主力商品などについて話し合っ

て決めるという。今年も、校内の落ち葉を使った手作りカード、地元の竹を活用した消臭用の竹炭などを開発した。校内の田畑を利用した米と野菜の栽培では、亀岡市環境事業公社から生ごみから肥料を作る方法を学び、化学肥料を使わないように心掛けた。

児童たちの商品は、西別院町の直売所「犬甘野風土館 季菜」の催し



や校内の学習発表会で販売し、来場者の人気を集めている。社長を務める6年松田英里さん(12)は「商品を作るためには、みんなの力が必要。買ってもらえたら成果が出ているようにうれしい」と話している。

木村正己校長は「子どもたちが高校や大学進学で町を離れても、将来、戻ってきた時のために、起業して生計を立てる手だてを少しでも身につけてもらえたら」と期待する。

(北川裕猛)

「NISSIIカンパニー」で作った商品を持つ児童ら(亀岡市安町・市役所)